

東日本大震災津波からの 岩手県の復興に向けて

～ いのちを守り 海と大地と共に生きる
ふるさと岩手・三陸の創造 ～

2014年3月12日

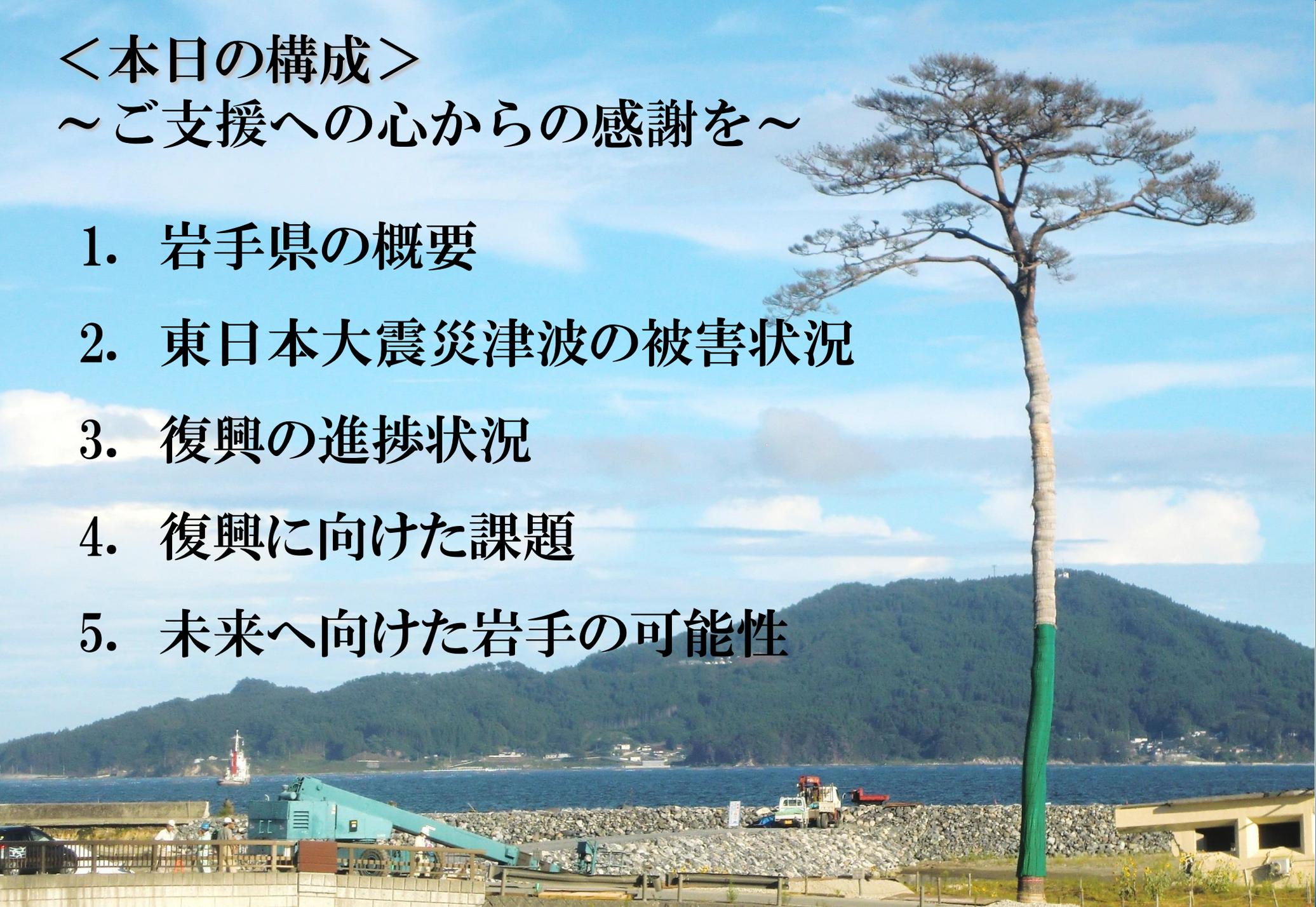
岩手県知事

達増 拓也

＜本日の構成＞

～ご支援への心からの感謝を～

1. 岩手県の概要
2. 東日本大震災津波の被害状況
3. 復興の進捗状況
4. 復興に向けた課題
5. 未来へ向けた岩手の可能性



1 岩手県の概要

岩手県メインキャラクター
「そばっち」



岩手県の特徴

面積：15,279km²

人口：129万4千人

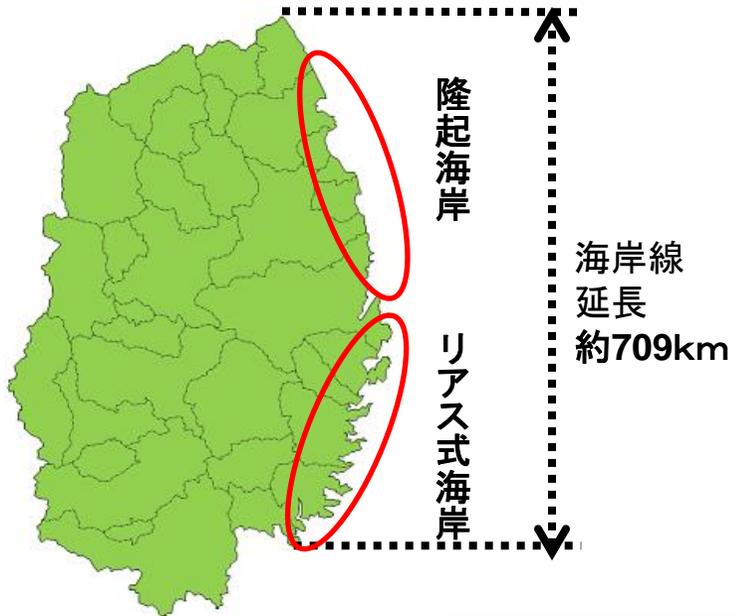


三陸産のワカメ
(養殖ワカメの生産量全国第1位)



三陸産のアワビ
(アワビの漁獲量全国第1位)

1 岩手県の概要



2 東日本大震災津波の被害状況

○ 阪神・淡路大震災と東日本大震災の比較

	阪神・淡路大震災	東日本大震災
発生日時	1995年1月17日	2011年3月11日
地震規模	マグニチュード7.3	マグニチュード9.0
甚大な被害の地域	兵庫県	岩手県、宮城県、福島県
死者/行方不明者※	6,434人/3人	15,884人/2,640人 (4,672人/1,142人)
住宅被害 ※全・半壊のみ	249,180棟	399,284棟 (25,705棟)
特徴	都市型	・ 広域型 ・ 複合災害 (地震、津波、原発事故)

※ 「死者/行方不明者」、「住宅被害」：復興庁発表2014年1月10日現在。()内は岩手県の被害状況2014年1月31日現在。

2 東日本大震災津波の被害状況

岩手県 陸前高田市（震災前の様子）



2 東日本大震災津波の被害状況

岩手県 陸前高田市（震災後の様子）



3 復興の進捗状況

◆震災から半年後の2011年8月、「復興計画」作成

《復興の目指す姿》

いのちを守り 海と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の創造



- 迅速な復興の達成と、2019年度に策定が予定される県の次期総合計画を見据え、**2011年度から2018年度までの8年間**を全体計画期間とする。

3 復興の進捗状況

災害廃棄物：2014年3月末処理完了見込み
復興道路：9割以上で着手
三陸鉄道：2014年4月に全線完全復旧



災害復興公営住宅
(岩泉町・森の越地区)



共同利用漁船等復旧支援対策
事業で整備した定置網漁船

「安全」
の確保

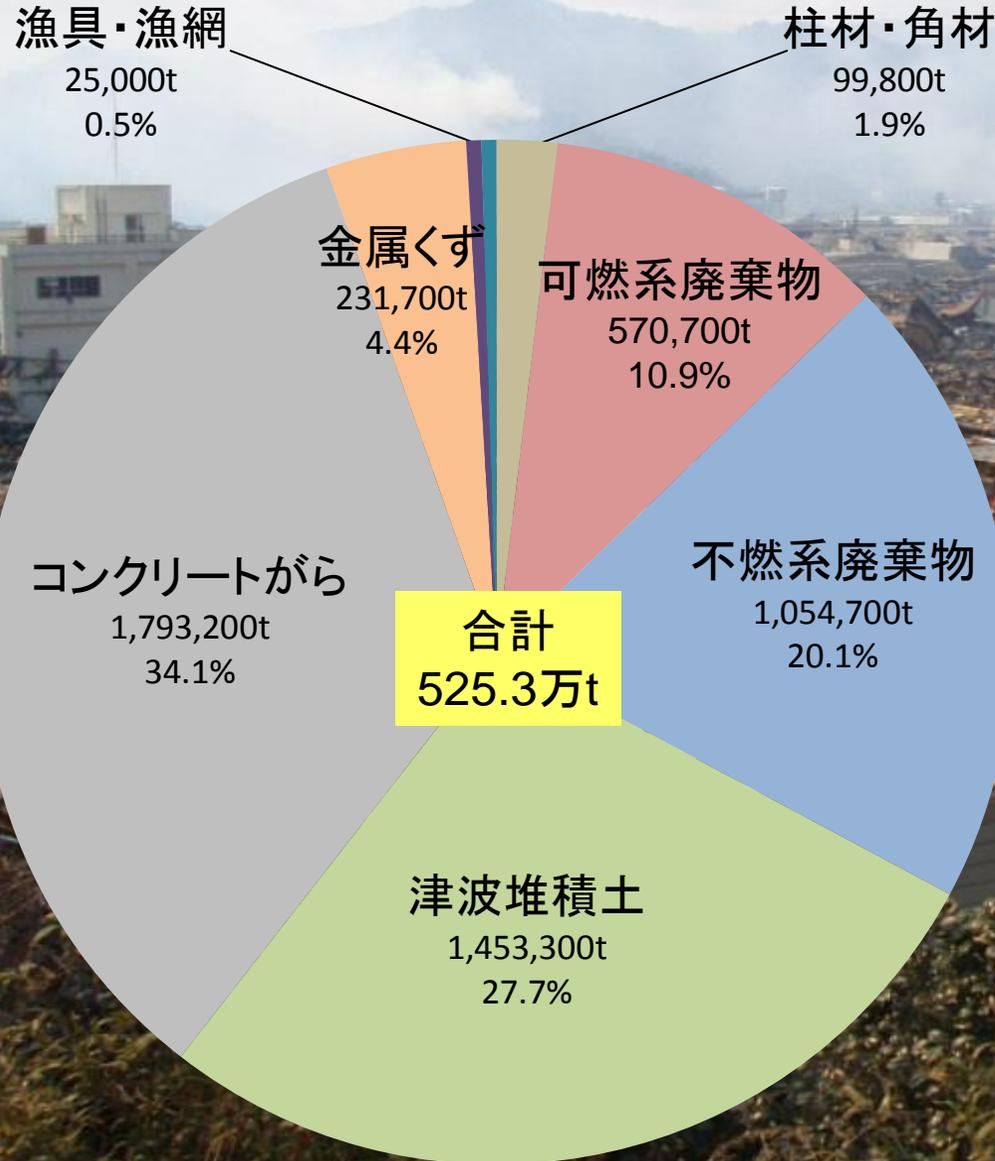
「暮らし」
の再建

「なりわい」
の再生

災害公営住宅：6,038戸整備予定

被災事業所：約8割が再開
産地魚市場水揚量：平年水準の
約7割まで回復

災害廃棄物の推計量



県内全市町村の一般
廃棄物約12年分に相
当する量

県内施設における処理状況(焼却、セメント焼成含む)

二戸地区クリーンセンター
受入実績: 300t

八幡平市清掃センター
受入予定量: 3,000t

岩手・玉山清掃事業所
受入実績: 400t

滝沢・雫石環境組合
受入実績: 5,400t

盛岡市クリーンセンター
受入実績: 7,900t

盛岡・紫波環境組合
受入実績: 4,700t

花巻市清掃センター
受入予定量: 4,300t

北上市清掃事業所
受入実績: 7,200t

胆江地区衛生センター
受入実績: 3,200t

いわて第2クリーンセンター
受入予定量: 12,200t

久慈地区清掃センター
受入予定量: 2,700t

宮古清掃センター
受入予定量: 14,400t

宮古地区仮設焼却炉
受入予定量: 55,600t

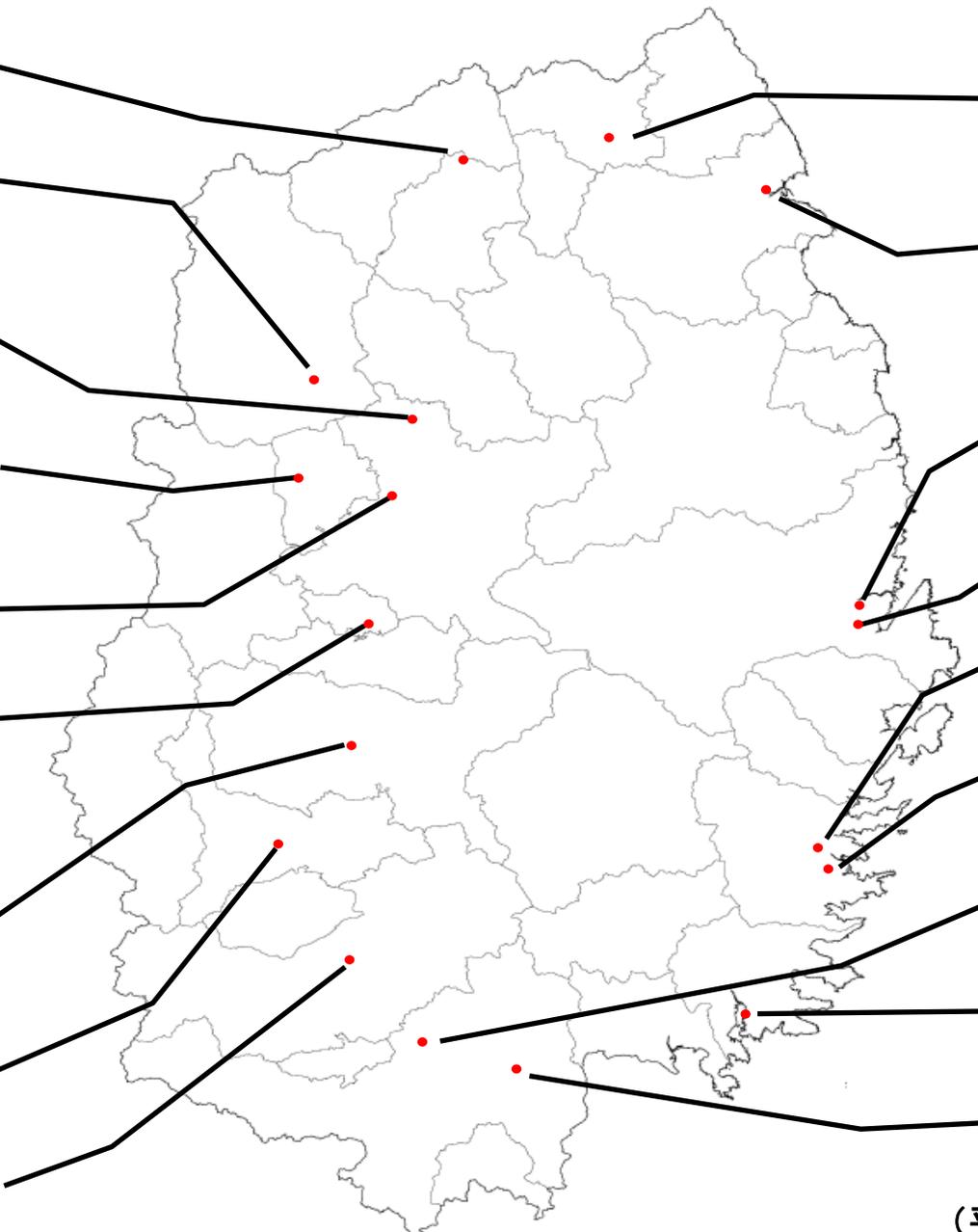
釜石 仮設焼却炉
受入予定量: 42,800t

岩手沿岸南部クリーンセンター
受入予定量: 28,300t

三菱マテリアル岩手工場
受入予定: 67,200t

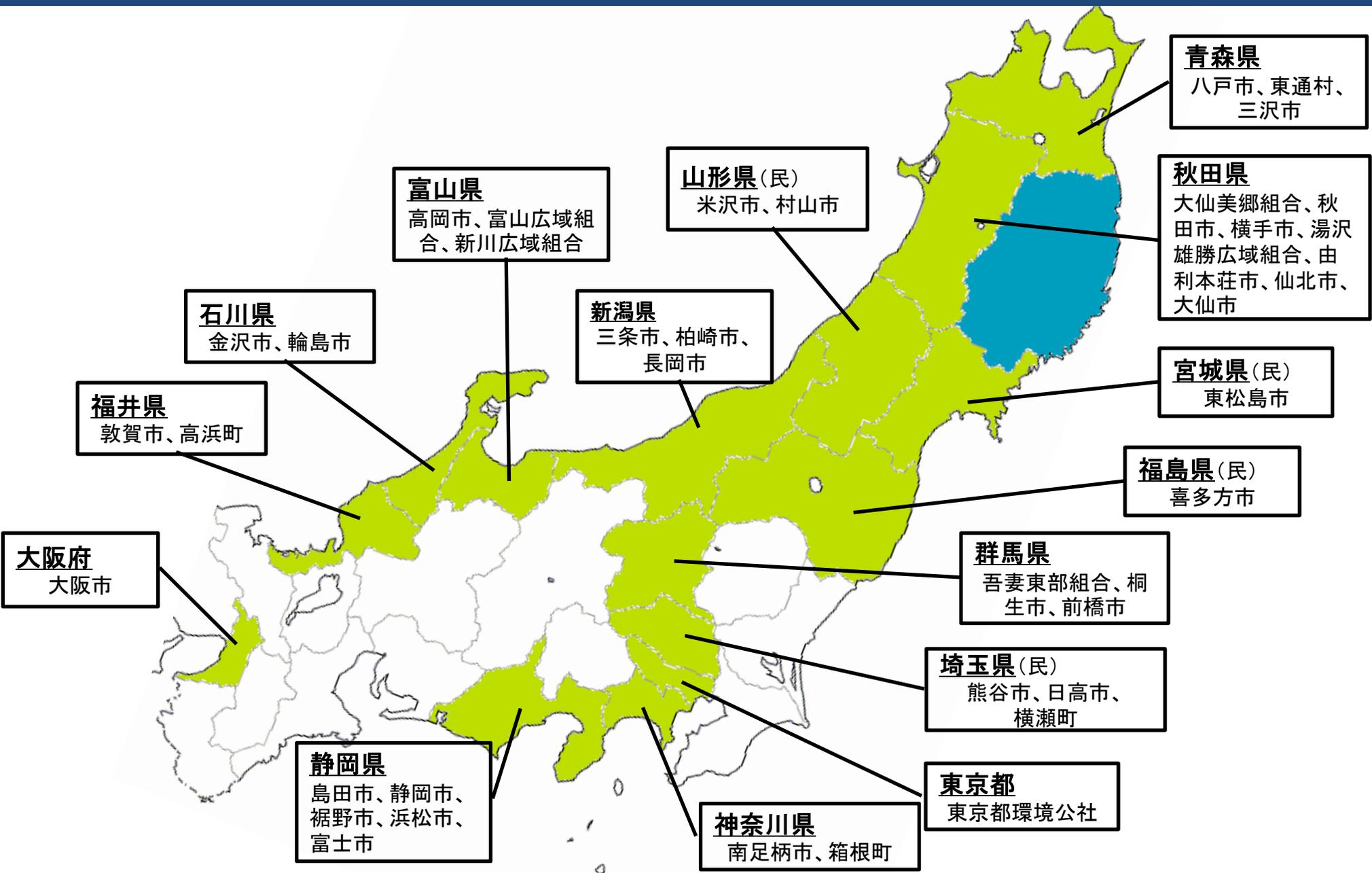
太平洋セメント大船渡工場
受入予定: 993,800t

一関大東清掃センター
受入実績: 1,800t



(平成26年1月31日時点)

広域処理の状況



再生利用の状況 (H26.1.31現在)

- ・災害廃棄物(388万トン)の再生利用:約323万トン(83%)
- ・津波堆積物(145万トン)の再生利用:約145万トン(100%)

種類	量	主な用途
コンクリートがら	207万トン	復旧工事の盛土等
可燃物・不燃物	90万トン	セメント原料・燃料
金属くず	18万トン	金属スクラップ
木くず	7万トン	チップ化
その他	2.4万トン	
津波堆積物	145万トン	復旧工事等の盛土等

【参考】再生利用以外の処理状況

焼却:41.5万トン 埋立処分:23.4万トン

**仮置き場の災害廃棄物
(大船渡市 平成23年7月)**



処理後の状況
(平成25年3月)



3 復興の進捗状況

2011年度 2012年度 2013年度 2014年度 2015年度 2016年度 2017年度 2018年度

岩手県東日本大震災津波復興計画

復興基本計画
(平成23年度～平成30年度)

復興実施計画

第1期
～基盤復興期間～
(2011年度～2013年度)

第2期
～本格復興期間～
(2014年度～2016年度)

第3期
～更なる展開への連結期間～
(2017年度～2018年度)

復興実施計画（第2期）を進めるに当たって重視すべき視点

参画

若者・女性等の参画による地域づくりを促進

つながり

多様な主体が連携・活動する相乗効果により復興を加速

持続性

地域資源の発掘・活用など地域社会の持続性を重視した取組

4 復興に向けた課題

①復興まちづくり事業を担う技術者等の人材不足

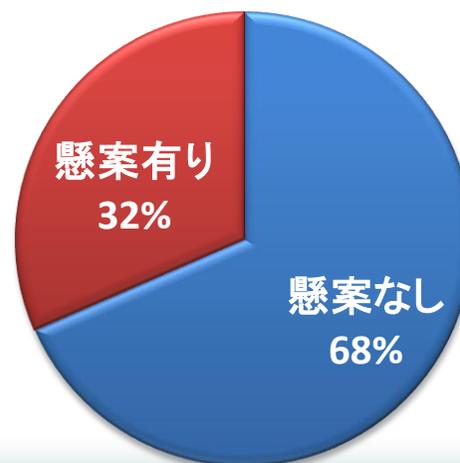
- ・被災地のまちづくりや災害公営住宅等ハード事業を担う技術職員の不足
- ・用地買収、埋蔵文化財調査等の専門的知識・経験を有する職員の不足

②事業用地の円滑かつ迅速な確保

- ・所有者不明や相続未処理などの課題を有する事業用地を円滑に取得するための手続きの抜本的簡素化

復興事業の取得予定用地について、
権利者調査を実施した結果、
所有者不明や相続未処理等の懸案事項が
約3割存在していた。

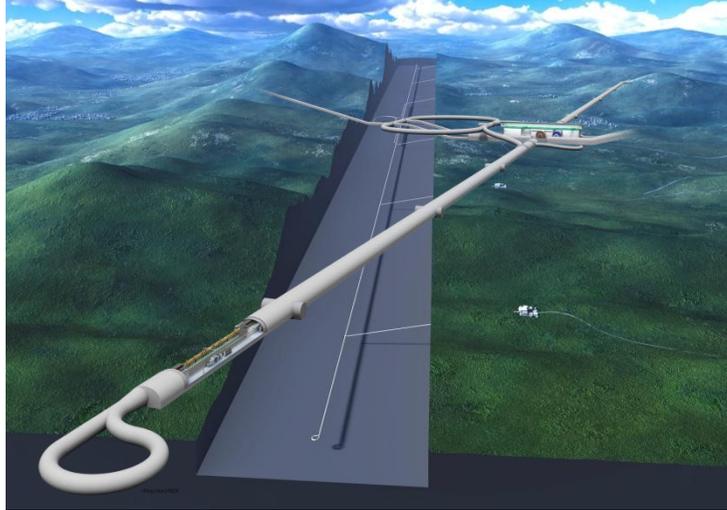
復興事業用地に係る権利者調査の状況
(平成25年10月末現在)



5 未来へ向けた岩手の可能性

(1) 地域資源を活用したグローバルな取組

国際
リニア
コライ
ダー



平泉
世界
遺産



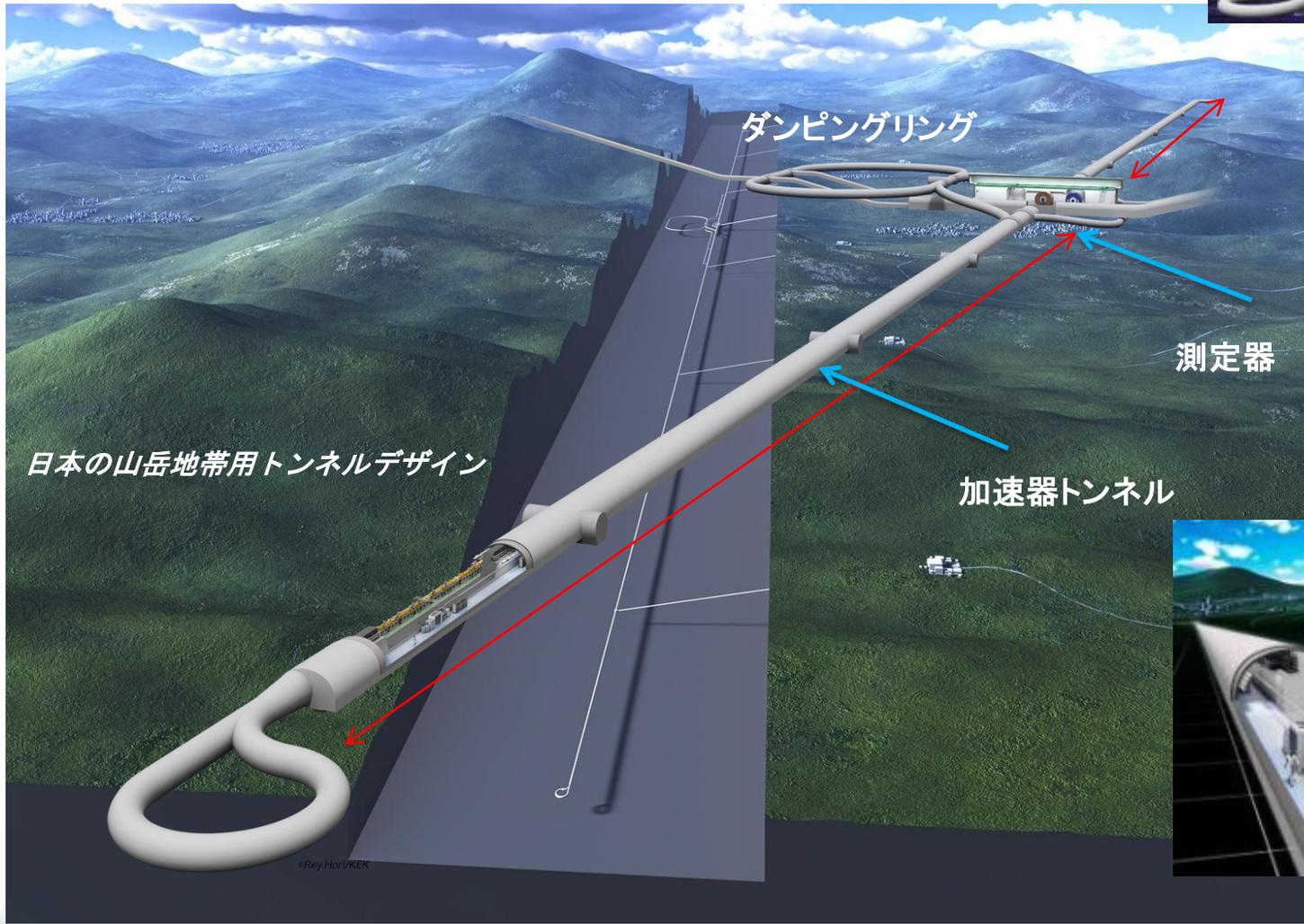
(2) 国内外との交流増大による新しい岩手の創出

海外での復興報告会



(1) 地域資源を活用したグローバルな取組

① 「国際リニアコライダー」(ILC)は岩手に ILC リニアコライダー加速器のイメージ図



② 平泉の文化遺産は世界の宝

平成23年6月26日、「平泉文化遺産」世界遺産に登録



© Iwate Prefecture



③ 三陸ジオパークを世界ジオパークに

2013年9月 日本ジオパーク認定

構想のテーマ

『悠久の大地と海と共に生きる
～震災の記憶を後世に伝え学ぶ地域へ～』



浄土ヶ浜ジオサイト(宮古市)



(2) 国内外との交流増大による新しい岩手の創出

① 復興に向けた地域間連携

ア 自治体間の連携

発災以降、**全国の自治体から岩手県へ多くの職員を派遣いただいている。**

【他自治体からの応援派遣職員数（2013年12月1日時点）】

岩手県：**160名**、岩手県内市町村：**586名**

大震災を契機に、自治体間の相互支援体制が**自主的に形成**された。
⇒地方分権が進化している姿！

イ 多様な主体との連携

世界の国・地域、企業、NPO、ボランティア等による、被災地での様々な支援活動が展開。

多様なつながりの力をいただきながら、
一日も早い復興実現へ！
⇒“開かれた復興”



岩手県の復興PRポスターにもご登場いただいたNPO法人「NPO愛知ネット」

② 「あまちゃん」を契機とした取組

北三陸の地域資源が、全国の注目を集めています！



「まめぶ汁」も今や全国区に。

先日開催されたB級グルメ全国大会（B-1グランプリin豊川）にも出場し、**第5位入賞**！

三陸鉄道お座敷列車内でウニ丼を販売する海女姿の女性ガイド

三陸復興



岩手は必ず復興を果たします。
引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

2014年3月12日

岩手県知事

達増 拓也